

第1回秦野市総合計画審議会 会議記録

1 開催日時	令和7年6月2日（月）午後1時30分から午後3時30分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階3A会議室	
3 出席者	委 員	池田委員、薄井委員、海平委員、小野委員、北村委員、小泉委員、小林委員、斎藤(政)委員、坂野委員、柴田委員、竹内委員、田村委員、中谷委員、藤村委員、松崎委員、宮永委員、山崎委員、石井委員(欠席)、斎藤(初)委員(欠席)、宮川委員(欠席)
	市	市長、政策部長、総合政策課長、行政経営課長、財政課長、総合政策課課長代理(総合政策担当)、行政経営課課長代理(行政経営担当)、行政経営課課長代理(公共施設マネジメント担当)、財政課課長代理(財政担当)、総合政策課主査
4 議 題	(1) 秦野市総合計画審議会の運営に係る申し合わせ事項について (2) 総合計画はだの2030プラン後期基本計画策定方針及び協働・連携による主な取り組みについて (3) 総合計画はだの2030プラン後期基本計画の骨子について (4) 総合計画はだの2030プラン後期基本計画策定スケジュールの概要について (5) その他	
5 配付資料	次第 資料1 秦野市総合計画審議会委員名簿 資料2 第1回秦野市総合計画審議会 市出席者名簿 資料3 秦野市総合計画審議会規則 資料4 秦野市総合計画審議会の運営に係る申し合わせ事項(案) 資料5 総合計画はだの2030プラン後期基本計画策定方針 資料6 総合計画はだの2030プラン後期基本計画 協働・連携によるこれまでの主な取り組み 資料7 総合計画はだの2030プラン後期基本計画の骨子 資料8 総合計画はだの2030プラン後期基本計画策定スケジュールの概要(令和7年度) 参考資料1 総合計画はだの2030プラン前期基本計画における数値目標及び中間評価 参考資料2 総合計画はだの2030プラン前期基本計画に掲げるハード事業の予算決算状況等一覧 参考資料3 一般会計における一般財源規模について(推計と実績の比較) 参考資料4 地域が考えるまちづくり計画案(8地区) 参考資料5 秦野こども未来づくり会議が考える未来づくりのアイデア	

	参考資料6 将来人口の推計について(趨勢人口)
	参考資料7 総合計画はだの2030プラン後期基本計画 基礎調査結果
	刊行物等 統計はだの(令和6年度版統計要覧)
	// 令和7年度施政方針
	// 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)令和5(2030)年度評価報告書

13:30～

◆開会

- ・資料の確認
- ・出席委員数(17名/20名)及び会議成立の報告

◆委嘱状の交付

◆市長あいさつ
(略)

◆委員の紹介及び市職員の紹介

◆正副会長の選任

- ・竹内委員から小林会長及び坂野副会長を推薦する発言
→ 異議なし
- ・小林会長及び坂野副会長を選任

◆小林会長あいさつ
(略)

◆諮問

- ・後期基本計画に関する事項について、諮問
- ・諮問後、市長は退席

◆議事(1) 秦野市総合計画審議会の運営に係る申し合わせ事項について

- ・事務局から議事(1)に係る説明(資料4)
→ (案) について承認

	◆議事(2) 総合計画はだの2030プラン後期基本計画策定方針及び 協働・連携による主な取組みについて ・事務局から議事(2)に係る説明(資料5、6) (主な質疑)
坂野副会長	問：丁寧に市民等の意見を聴取し、反映させようと努力していると感じたが、参加者ごとの意見の特徴があれば、感想を教えてください。
総合政策課	答：若い世代からは、商業施設も含め、若者が集まり、楽しむことができる場所を求めているという印象を受けた。
坂野副会長	意見：従来だと参加が難しかった若い世代の意見を拾えたと思うが、市民の総意を考えていく中で、高齢者や若者など、違う世代の意見をお互いに聞くような機会があると良い。
小林会長	教育委員会の協力により、こどもたちへのアンケートや会議などが実施されており、小泉委員も関わりがあると思うが、感想はどのようなか。
小泉委員	意見：こどもたちの会議は以前から行っており、最初はいじめについて考える会議が主体であったが、それを一昨年から、未来づくり会議に移行した。こどもたちの意見を市政に反映できるようになれば良いと思っている。欲を言えば、それに予算が付いてくると、こどもたちもやる気になるとの意見も出ている。
小林会長	この総合計画審議会も未来に向かって考えることで、全員で問題を解決しようという趣旨の会議であり、こどもの意見を聞くというのは大変良いことだと思う。未来を作っていけないとこのまちも続いていかなくなってしまいますので、是非こうした意見を反映して進めていきたいと思う。
中谷委員	問：市民へのアンケートで、無作為抽出とはどのような方法か。
総合政策課	答：秦野市全体で、市民の意見を広くバランス良くいただくために、市内の各地区の男女比、年齢の構成比が実際と近くなるように、デジタルで無作為に、全体の人口の構成がそのまま小さくなった形で機械的に抽出をしたもの。
	◆議事(3) 総合計画はだの2030プラン後期基本計画の骨子について ・事務局から議事(3)に係る説明(資料7) (主な質疑)
池田委員	意見：県道705号は平塚土木事務所が所管しており、一方通行であった狭い道路を、用地交渉を進めて、広い道路に改良するもの。現在、歩道の拡幅整備をしており、その広がった歩道の下に電線の地中化を

	する。骨子に記載されているとおり、令和8年度の対面通行開始に向けて鋭意努力をしていく。
山 崎 委 員	問：総合計画と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」との関係については、どういう整理をしているか。
総 合 政 策 課	答：総合計画のリーディングプロジェクトを、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標としている。
山 崎 委 員	意見：地方創生について、国は関係人口を増加させることに力を入れていくようなので、国の動きを見ながら進めていくと良いと思う。
小 林 会 長	秦野市は森林観光都市を目指しているが、環境が専門である竹内委員の意見はどうか。
竹 内 委 員	問：成果指標について、例えば森林が整備されている面積は年々増えていると思うが、生物調査や外来種対策などは、成果指標として表すのは難しい。また、数値化すると、達成している、していないということが目に付くが、そのあたりの問題点や数値化する成果指標の選択など、今後、後期計画ではどのようにしていくのか。
総 合 政 策 課	答：総合戦略の外部評価でも、指標であるK P Iが、最終的な目標であるK G Iの達成に寄与しているのかなど、意見をいただいている。苦慮しているところではあるが、成果指標を達成することが、目標につながるものとなるよう、現在庁内で整理をしている。
小 林 会 長	県でも、K P IとK G Iばかりが歩いてしまって、ゼネラルにいろいろな要素を考えながら因果関係を整理するということができないので、ロジックモデルなども使いながら、少しずつ評価を組み立てていく試みをしようとしているところ。新しい視点も必要かと思うが、坂野委員の意見はどうか。
坂 野 副 会 長	意見：行政サービス改革基本方針実行計画は、比較的ロジックモデルを忠実に行っている。達成したい目標を文言で表現しておいて、次に具体的にどのような事業や活動指標で達成しようとしているかということがあり、その後、実際どのような成果が出たかというもの。そういう視点でリーディングプロジェクトを見ると、若干欠けている部分がある。適切な指標があれば拾うし、拾えないものがあつたときには、文言で確認できるようにしておく。もう一つは、それを達成しようとしている事業の活動量は捉えられるので、その活動量が文言と整合しているかどうかチェックをかけるという形で評価を進める。ただ、これは簡単ではなく、試行錯誤して進めていくことであり、また新しいバージョンができれば良いと思っている。 意見：前期計画との関係という観点で見ると、項目や中身が変わっている箇所があるため、どういう観点で変えたかコメントがあるとわかりやすい。一つは、能登での震災など、前期計画期間中に新たに発生し

総 合 政 策 課

たことが記載されており、もう一つはこどもの関係など、国の新しい方針が決まったことによる記載の追加。内容はもっともなことであり良いと思う。大変な作業にならないよう、作業量と折り合いがつく範囲で対応できるのであればお願いしたい。

答：今回骨子で示している基本政策に、今後基本施策が付いてくることになり、具体的な取組みが入ってくる。2回目の審議会では、これを素案という形でお示しするが、できるだけ前期と比較したような形でわかりやすいものにしたい。また、骨子については、ご意見のとおり、こども家庭庁の発足や、こどもまんなか社会が掲げられたこと、また、デジタル田園都市国家構想や新しい地方経済・生活環境創生本部の発足なども考慮し、ブラッシュアップしたもの。「社会潮流と基本的な策定の視点」の記載順については、基本的に前期基本計画の基本目標の記載順に合わせて整理している。

小 林 会 長

この骨子に基づいて、次回の審議会で素案が出されることになるが、まだ発言されていない委員から、各団体でそれぞれ抱えている御意見があると思うのでお願いしたい。

薄 井 委 員

意見：骨子では、「秦野ならではの豊かな自然と積み重ねられた歴史・文化を大切に守り」とある。文化財は地域の特色でもあるし、広範囲に影響を与えているもの。具体性を持つていくことが必要。秦野の文化財には数十年前から関わっているが、秦野の仏像は全部見ている。はだの歴史博物館は少しリニューアルしたが、まだ足りていない。秦野規模でこれだけの文化財を抱えているのであれば、今の博物館に留めることなく、将来的には複数施設を持つことも大事だと思う。

海 平 委 員

意見：森林観光ということだが、実際には山の名称はあまり知られていない。小学校低学年から山の名称を教えるような教育も必要かと思う。医師会としては、こどもの未来のことよりも、今現実にある超高齢化のことを考えている。医師会では秦野在宅ケアセンターを設置し、高齢者支援センターもあるが、在宅医療・介護連携相談支援室により、介護のプロの悩みをサポートするというシステムを作っている。これまでの秦野を支えてくれた高齢者が、最期幸せに逝けるようにということも、入れておいたほうが良いと思う。

小 野 委 員

意見：骨子は網羅的に捉えられているので、全部実現できたら素晴らしいが、いろいろな課題も多いと思う。関係人口を増やしていくとか、市外へメッセージを発信していくのも大事だが、長年住んでいる人も秦野のことを知らないということも多いし、市民一人ひとりが自分ご

	ととして、秦野市のことを知る機会を作っていくことは、多様性のあ る社会を維持していくうえでも重要。アンケートを取っていたが、意 見をいただいた方々にフィードバックが必要であり、情報を浸透させ ていくことも非常に重要だと思う。
北 村 委 員	意見：計画の体系図の基本目標には「住みたくなる訪れたくなるにぎわ い・活力あるまちづくり」とあるが、これに「働きたくなる」という ことを入れていただけると、にぎわいの創造にもつながると思う。働 きたくなるということは、住みたくなるにもつながるし、産業が活性 化されれば、訪れたくなるにもつながる。産業界は人手不足が一番の 課題になっていて、自助努力が大事だと思うが、それに対しての環境 側面のサポートをエッセンスとして盛り込むことを検討いただければ と思う。
小 泉 委 員	意見：こどもたちの学びでは、「秦野ふるさと科」という、秦野について 学んでもらおうという機会をつくっている。ふるさと秦野に対する誇 りと愛着を持って、これからも秦野に住んでもらえるよう、いろい ろな取り組みをしている。
斎藤（政）委員	意見：新東名の全線開通が間近に迫っているので、地域特性を生かして、 豊富な地下水を利用しながら産業が活性化するような企業誘致ができ ると良いと思う。企業が元気でないと、まちの活性化は進まない。是 非、新東名の全線開通に合わせて、地域に根差した企業の誘致を進め てもらえればと思う。
柴 田 委 員	意見：小田急線の沿線を見ていると、多摩地域も緑が深いが、秦野エリ アの緑は本物だと思っている。小田急線があり、また東名・新東名と いう素晴らしい大動脈を持っているところから考えると、秦野市が持 つ資源は、沿線の世田谷区や川崎市の住民からすると魅力的なものだ と理解をしていて、それをこどもや青年の世代に、それ以上の世代と いろいろな形での交流を図るということが十分可能なのではないかと 思う。
田 村 委 員	意見：民生委員として、福祉で考えると、骨子には地域共生社会を作ろ うということが入っていて良いが、自治会はなかなか機能しない状態 になりつつある。秦野市内でも自治会自体が無くなる所も出てきてお り、役員の成り手がなくて苦労している。市も認識はしていると思 うが、特効薬もなく非常に困っている。地域の防災という面からも、 自主防災会としても機能しないということもあり、お年寄りの見守り

	なども民生委員だけではできない。非常に難しい問題だが、自主防災会や自治会の活動を活性化するための施策がないかと常日頃悩んでいるので、一つのテーマとして是非考えてもらいたい。
中 谷 委 員	意見：私も高齢者関係の仕事をしているが、地域でコミュニティをどう構築するかという話は、30年～40年前からあった話だが、何も変わっていない。こどもたちと高齢者をどのように巻き込んで、明るい社会にできるか。高齢者が培ってきた知恵は大事であり、共生社会を構築するうえで課題になっていくかと思う。高齢者が安心して暮らせるというのは、単に施設があれば良いということではなく、それぞれ家庭や経済的な問題が絡んでいると感じている。
藤 村 委 員	意見：成年後見制度は、令和9年あたりに民法が改正され、必要なときにだけ制度を利用するようになるということで、地域での支援に大きくルールが変わる。成年後見は費用がかかるので、制度的に改正するのは良いことだと思うが、受け手となる地域が大きな責任を負うことになる。一方的に地域にお願いするという形は、本当に地域が対応できるのか、大きなテーマになるので、総合計画の中で良い提案ができたらと思っている。
松 崎 委 員	意見：事業者としての視点では、人が増えるか、生活する人が増えるということでは、我々の商売の売上げは上がらない。青年会議所も20年前は80名から100名を超えていたが、今は24人まで減っている。地元で事業を興したいという人が減っているというところがある。未来を描いていくのであれば、事業者の誘致を考えることになるが、市内の人の創業を支援することとなれば、ハードルは少し下がってくると思うので、そういう支援や、一緒に事業をやっていくような話になっていけば良いと思っている。
宮 永 委 員	意見：基本政策の「地域特性を生かした都市農業の振興」については、全国に先駆けて、2005年に神奈川県が都市農業推進条例を制定したことを受け、市と農業委員会とJAで都市農業支援センターを設置し、ファーマーを育てる、生産をする、地域で作るということでやってきており、市長に塾長もやっていただいて、それなりの成果が上がっている。ただ、都市農業振興の一番大きな課題は、市街化区域の農地が250ヘクタールほどあるが、その中で、生産緑地という、市街化区域の中で農業を進めるという制度を活用した農地が今100ヘクタールを切っていて、例えば、秦野駅の周辺を見ると小さい農地が点在しているので、集約させる必要がある。今までは、そういう農地は

宅地化すべきものという扱いだったが、人口減少の中で必要になり、方針が変わってきている。農地の集約化、あるいは立地適正化の中で誘導できないと、農業振興は進められない。調整区域においても、農地が点在している。そういう農地をもっと集約させて、しっかりと生産ができるようにする必要がある。食料安全保障としての自給率向上が求められているが、カロリーベースで食料自給率も３８パーセント程度しかない。地域で地産地消に取り組んで自給率を高めて、次代を担うこどもたちの給食もしっかりと地元の食材で供給できる体制を作っていくということがこれから求められていく。どのような政策ができるか、今一步踏み込んで考える機会にしていきたいと思う。

◆議事(4) 総合計画はだの２０３０プラン後期基本計画策定スケジュールの概要について

・事務局から議事(4)に係る説明(資料８)

(主な質疑)

小 林 会 長

秦野市の財政に目をやると、各団体の代表の方からの様々な御意見を全部盛り込んで総花的な総合計画を作れば、結果的には財政負担を招いて、秦野市自体が倒れてしまう。総合計画は外部からあまり注目されない計画ということで委員から話もあったが、行政の職員はこれに拘束されて仕事を進めていくことになる。財政状況についての話も今後出てこようかと思うが、まだ意見を言いたいということであれば、直接事務局に意見を頂戴いただきたい。

スケジュールについてはこれで進めさせていただければと思う。

◆議事(5) その他

・事務局から、次回の会議日程について説明。

(主な質疑)

小 林 会 長

総合計画は私も一生懸命勉強してきたが、本当に難しく、とても重要なものだと思う。皆さんの声を聞いて全て反映できれば良いが、財政的にはそうではない。それから、人材の枠組みというところで、役所自体が人手不足という現状もあるので、限られた資源の中で、最良の効果が出せる計画を作っていくということが目標となる。皆さんの御意見をたくさん頂戴しながら、できるだけ素晴らしい内容の計画にして、秦野市を最良の方向に導いていければと考えている。

15 : 30

◆閉会